

教 育 長 様

校番 002 広島国泰寺高等学校長

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校
平成30年度 報告書**

研究の概要

研究の目標
総合的な学習の時間における「資質・能力」の再検討と明確化、「資質・能力」を育成するための課題研究を軸としたカリキュラムや生徒の成長プロセスを含めた「資質・能力」の評価法の開発を行う。

研究内容
○総合的な学習の時間等における「探究的な学習」の充実について
課題研究を軸としたカリキュラムの工夫や、大学や専門機関との連携の充実を行った。
①普通科普通
1 学年 夢探究Ⅰ(基礎)～現代社会の諸問題に関わる知識を獲得し、探究の方法を知る～
2 学年 夢探究Ⅱ(実践)～現代社会の諸問題から自ら課題を発見・設定し、探究活動を実践する～
3 学年 夢探究Ⅲ(深化)～課題解決の過程を方法論として他の場面でも活用し、自己の夢につなげる～

年	月	内容	資質・能力		
			課題を発見する力	課題を解決する力	論理的・批判的思考に基づく表現力
1	5～7	切り抜き新聞	○	○	○
	5～9	学問と実社会	○	○	○
	10	論文講読・広大訪問		○	○
	11	「課題研究の進め方」講座			
	11～3	ミニ探究活動		○	○
2	4～3	課題研究	○	○	○
	7・11	県立大学合同授業			
	3	ポスター発表会		○	○
3	4～9	論文作成・コンクール応募		○	○
	10～1	発表会・まとめ	○	○	○

②普通科理数コース
1 学年 EPSⅠ (Basic 探究活動の基礎・基本) ～科学的・数学的に探究する方法を知る～
2 学年 EPSⅡ (Practical 探究活動の実際) ～科学的・数学的な探究活動の実践と国際性の育成～
3 学年 EPSⅢ (Advanced 探究活動の深化) ～科学的・数学的な探究方法を習得する～

年	月	内容	資質・能力		
			科学的・数学的な課題発見力	科学的・数学的な課題解決力	科学的・数学的な表現力
1	4～6	ミニ探究活動・GSC	○	○	○
	7～10	自然体験合宿・広大訪問	○		○
	11～3	科学研究・サイエンス講座	○	○	○
2	4～3	科学研究		○	○
	3	発表会		○	○
3	4～9	科学研究・論文・発表		○	○
	10～1	研究のまとめ	○	○	○

※サイエンス講座：大阪大学や広島大学等の先生による講座，HP社によるAI講座等

○資質・能力の評価について

①ルーブリックの作成

学校全体で育成する「資質・能力」を基に、総合的な学習の時間で育成する「資質・能力」を明確化した。次に、教職員研修会や大学との連携等を通して総合的な学習の時間における生徒実態を基にルーブリックを作成した。そして作成した総合的な学習の時間のルーブリックを基に、学校全体で育成する「資質・能力」を評価するルーブリックを大学との連携等を通して作成した。

②ルーブリックを用いた評価

①のルーブリックを用いて、1学年の生徒を対象に教員による評価を2月に行った。また、同じルーブリックを用いて、生徒による自己評価を行った。

- ・1学年で教員が実施したルーブリック評価の平均値は、1.0～1.9であった。これは、1学年の生徒に身に付けさせたいレベルを評価「1」に設定していることが理由と考えられる。
- ・ルーブリックを用いて生徒に自己評価させたが、教員より生徒の評価が高い傾向であった。3年間、同じルーブリックを用いた評価を続けることで、探究活動と評価結果の関連を考察したい。
- ・生徒の自己評価では、科学部所属生徒は所属していない生徒に比べ評価が高い傾向にあった。科学部の生徒は1年間、科学研究を進め、その内容を何度も校外の発表会で発表していることが要因と考える。

今年度の成果と次年度の課題

①成果

- ・教職員研修会等を通して、総合的な学習の時間で育成する「資質・能力」の評価ルーブリック作成を全教職員で進め、共通認識を図った。
- ・「資質・能力」の育成を目指し、平成31年度からの総合的な学習の時間のカリキュラムの方向性を決定した。

②課題

- ・総合的な学習の時間と教科・科目との繋がりや、学校全体のルーブリックの運用方法が不明確である。
- ・ルーブリックの評価結果を指導へどのようにフィードバックするかについて工夫する必要がある。
- ・教員間に課題研究の指導力に差がある。また、生徒間での課題研究へのモチベーションに差がある。